

# 「小児歯科のパラダイム・シフト」

ハート小児歯科（東大阪市）

**桑原 康生**（くわはら こうせい）



●略 歴

- 1982年 松本歯科大学卒業
- 1991年 ハート小児歯科開院
- 1993年 松本歯科大学小児歯科専攻科入学
- 1996年 朝日大学歯学部小児歯科研究科入学  
日本小児歯科学会近畿地方会幹事 同認定医  
元大阪小児歯科専門医臨床研究会（O.S.P.）会長

パラダイムシフトという言葉をよく耳にします。

パラダイム・シフトの時代、つまり今までの枠組み仕組み自体が変革され、常識そのものさえが逆転する時代を表わします。確かに今、歯科医療においても今まで模範とされてきた枠組みとか仕組みとか、少しずつ変革してきているような気がします。つまり「今まではこうしてきた、これでよかった」だから「これからもこうしよう」と自分の常識に固持しているようでは、世の変革に取り残されてしまうような時代なのです。

このような時代の中、少子化は益々進み、かつ、歯科医師数が増加をし、歯科医師一人あたりの小児医療の需要の増加は見込めないと受け取れます。このことは私たちが従事する小児医療にも、何らかの変化を要求してくるものと思われまます。しかしそれはあくまでもある種の変化であって、衰退を意味するものではありません。

そして、この少子化の背景には、個人の価値観や人生観の多様化があるかと思われまます。十人一色から十人十色、そして一人十色の時代へ、マスからパーソナルへと時代は変化し、患者の求める要求はますます多様化し、またその求める満足度もより高くなって参りました。このような時代においては、患者のニーズを理解分析しそれに的確に応えることが重要となってくるのではないのでしょうか。

医療の場におけるその対応としては、一に、診療の守備範囲を拡大し広く患者を受け入れる方法。二に、守備範囲は狭くても、より専門性を高めて医院を特化していく方法、という二つの選択肢があるかと思ひます。しかし一は、多様化には対応できても高い満足度を充足することは難しく、又、二は満足度は充足できるが、多様化には対応仕切れない危険性があります。

当院は、昭和61年にチェアー数3台、17坪の医院面積で小児歯科専門医院としてスタートをし、5年後の平成3年にチェアー数7台、80坪と診療規模の拡大を試み、同時に矯正・小児歯科を標榜いたしました。そしてその5年後の平成8年、院内に矯正歯科を誘致し、グループ診療（グループ・プラクティス）を開始し、小児歯科専門医院として現在に至っております。

開院16年の流れの中で、矯正・小児歯科医院をあえて小児歯科専門医院に戻し、より専門性を高めることにより医院の特化をはかり、しかもその上で矯正専門医とグループ診療を行うことにより、守備範囲を拡大することも可能となりました。

今後さらに患者の医療サービスに対する要求は多様化し、またその満足度も高くなってくるものと思われまます。それに対し歯科医師一人の力であらゆる医療サービスに対応するには限界があり、専門を異にする歯科医師との密接な連携が重要となってくるのではないのでしょうか。